



福井市自然史博物館

# 博物館だより

FUKUI CITY MUSEUM OF NATURAL HISTORY NEWSLETTER



当館白山テラスから望む白山。(2017年12月3日撮影：特別館長 吉澤康暢)

## 福井の自然史情報

### 白山開山1300年

今年は、越前の僧・<sup>たいちょう</sup>泰澄が白山を開いたと伝えられる、養老元年(717年)からちょうど1300年になります。

当館の“白山テラス”は、福井平野東方に白山を一望することができる最高のビューポイントです。特に晩秋から早春にかけて、白く雪化粧した眺めは福井の絶景であり、その姿は人々の心を魅了し続けています。



裏表紙に関連記事があります。

# いぬ 平成30年の干支「戌」の種類

イヌは私たち人にとって最も身近で、魅力ある動物の一つです。イヌと人との歴史はとても古く、5~10万年前の東アジアにまでさかのぼります。イヌは野生のハイロオオカミを家畜化したもので、人との共同生活を送るなかで、狩猟や牧畜、愛玩などの目的にあわせて様々な犬種（品種）が誕生しました。分類学上、イヌはハイロオオカミと同種で、ハイロオオカミの一亜種\*1とされています。しかし、イヌは、犬種によって様々な見た目をしており、例えば立ち耳で小柄なポメラニアンや垂れ耳で大柄なゴールデン・レトリバー、丸顔で鼻先の潰れたブルドッグ、鼻先の長いウェルシュ・コーギーや柴犬など非常にバラエティーに富んでいます。このようなイヌの犬種は非公認のものを含めると世界中で700~800もあるといわれています。

イヌには「かわいい」、「癒される」など（人間は、イヌとふれあうと「幸せホルモン」と呼ばれるオキシトシンの分泌が促されると言われています。）様々な魅力がありますが、同じ亜種内でこんなにも姿・形が異なるのもイヌの魅力の一つではないでしょうか。



ポメラニアン



ウェルシュ・コーギー



柴犬

\*1 亜種とは種をさらに細かく分けた分類単位で、地域などによって形態や、遺伝子などに違いが見られる場合に用いられます。例えば、北海道にすむキタキツネと、本州にすむホンドキツネはどちらも「アカキツネ」という名前の同じ種ですが、亜種が異なります。



（文・写真／学芸員 出口翔大）  
撮影協力 手取フィッシュランド福井店

## 干支展～戌～

博物館では平成29年12月9日(土)から平成30年1月28日(日)まで、平成30年の干支である「戌(いぬ)」に関連したミニ企画展を行っています。タイリクオオカミの剥製の展示のほか、犬耳をつけて、キジ、サル(剥製)と記念写真を撮る「桃太郎コーナー」もありますので、ぜひ博物館に遊びに来てください。



タイリクオオカミの剥製  
[福井県自然保護センター所蔵]



## 「白山」、「イヌ」といったらイヌワシ!?



博物館だより本号のテーマは「白山」と「イヌ」です。お互いにあまり関連がなさそうですが、実はこの2つのテーマに関連する動物がいます。名前に「イヌ」の付く、日本最大級の猛禽類イヌワシです。では、なぜ白山と関連しているのか?名前の由来も含めて紹介します。



福井県内産イヌワシの剥製  
【当館所蔵】

### 白山を象徴する猛禽類

イヌワシは翼を広げると2mにも達する日本最大級のワシです。山深い環境に生息し、主にノウサギなど(時には仔ジカも!)を捕らえ、断崖絶壁の岩場などに巣を造ります。白山周辺がその重要な生息環境となっていること、「石川県を象徴する名山白山に常に生息する鳥」であること、その雄々しい姿、勇猛果敢な性格からイヌワシは石川県の「県の鳥」に選ばれています。

### イヌ+ワシ 名前の由来

名の由来については諸説あり、オオワシより小さく下等であることを意味する「イヌ」を付けて「イヌワシ」となった説や、幼鳥の鳴き声が「キャンキャン」とイヌのように聞こえるためなどの説があります。またイヌワシは漢字で「狗鷲」と書きますが、これはイヌワシが天狗のモデルとなったと考えられており、天狗の「狗」を充てたためという説もあります。

(文・写真/学芸員 出口翔大)

## 三ノ峰の昆虫

三ノ峰(標高2,128m)は、白山山系の2,000mを超す山嶺の南端に位置しています。福井県で最も標高が高いところは、三ノ峰の山頂からやや南に下った標高2,095mの地点となります。

この一帯は、県内の高山性・亜高山性昆虫の重要な生息地であり、福井県ではここでしか見られない昆虫も多くいます。高山蝶(主に高山帯にのみ生息するチョウ)として知られるベニヒカゲもそんな昆虫の一つです。8月に三ノ峰に登ると、タカネマツムシソウやハクサンフウロなどの高山植物で蜜を吸うこのチョウの姿を見ることができます(写真1)。

また、三ノ峰では、ハクサンクロナガオサムシやハクサンミヤマヒナバッタ(写真2)などの白山山塊固有の昆虫も見られます。特にハクサンミヤマヒナバッタは三ノ峰登山道ではよく目にするのできる昆虫です。

三ノ峰一帯は白山国立公園の特別保護地区に指定され、その環境は厳重に保護されています。しかし、近年

の登山ブームに伴う登山客の増加により踏みつけ等の影響を植物が受けたり、地球温暖化が進んで生息域が縮小するなどの理由で、将来的に絶滅してしまうおそれが指摘されている昆虫もいます。当館では、環境省中部地方環境事務所より許可を受け三ノ峰の昆虫調査を行っていますが、今後も調査を継続し、三ノ峰の環境の移り変わりを記録していければと考えています。



(写真1) ハクサンフウロの蜜を吸うベニヒカゲ  
(写真2) ハクサンミヤマヒナバッタの交尾  
(文・写真/学芸員 梅村信哉)

### 新任職員紹介



〈主任〉 吉田 武文

10月から自然史博物館にまいりました。生まれ育ったところが自然に囲まれた環境だったので、昆虫や植物には子どものころから親しんでいました。また、宇宙や天体に興味が有り、テレビで宇宙の番組を見るのもプラネタリウムや星空を見ることも好きでした。是非、皆さまにも足羽山にお越しいただき自然を満喫していただくとともに福井駅前プラネタリウムをご覧いただければと思います。

# 白山の魅力

吉澤 康暢 (特別館長)



白山は、御前峰 (2702.1m)、剣ヶ峰 (2677m)、大汝峰 (2684m) の三峰の総称です。石川県と岐阜県にまたがり、富士山や立山とともに日本三霊山のひとつに数えられています。また、西日本最高の独立峰で、これと肩を並べる山はこれより西にはありません。

白山は冬季、シベリアから日本海を渡ってくる季節風の大障壁になり、深い雪を積もらせます。山頂付近の積雪量は10m以上に達し、白山は一点の染みもない深々とした雪の衣をまとい、古来より「越のしらやま」と呼ばれてきました。各地から仰ぎ見る白銀に輝く姿は神々しく、人々の憧れの対象となってきました。

白山に登る最大の魅力は、夏季に草原を埋め尽くす高山植物の大群落です。特に“お花松原”のハクサンコザクラ群落は白山随一のお花畑で、一斉に咲き乱れる濃いピンクの花びらは魅力的です。涼風が草原を吹きわたり、吸蜜を訪れるマルハナバチの羽音が心地よく、まさに天上の楽園です。

もう一つの魅力は、活火山としての地形や地質です。頂上周辺にはいくつもの火口湖があり、付近には溶岩、火山岩塊、パン皮状火山弾、スコリアなどが散在し、火山噴火の名残をとどめています。白山の火山活動は約30万年前から40万年前に始まり、その後有史時代まで続き、1659年の噴火を最後に350年を越す休止期間が続いています。最近、白山周辺で群発地震が数多く発生し、白山直下約4km付近でマグマ活動があると推定されています。このように白山は再び噴火する可能性を秘めた活火山なのです。



白山の大汝峰より早朝の御前峰(右)と剣ヶ峰を望む(8月)。



白山の“お花松原”で咲き乱れるハクサンコザクラの群落(7月)。

この他にも、白山に通うと素晴らしい自然との出会いや感動があります。モルゲンロートに染まる北アルプスの峰々のシルエット、満月の夜の翠ヶ池の湖面のきらめき、天の川の星々が一個一個見えるような澄み渡った満天の星空、どこまでも高く湧き上がる雷雲と美しく光る雷光、山の斜面を見事に染め上げる朱色のナナカマド群落、寒波の訪れで形作られるエビのしっぽや樹氷群など枚挙に暇がありません。このような白山の無限の魅力は、自分が目指しているライフワークのテーマそのものだと思っています。



## 【あとがき】

今号では、今年、開山1300年を迎えた白山と平成30年の干支であるイヌについて取り上げました。先日、運転していると目の前に真っ白な山「白山」が見えました。ふもとの山はまだ冠雪していないため、より一層「白い山」という印象を受けました。その時私は、もし仮に、大昔にあの真っ白な山の名付け親になりなさいと言われたら、私も間違いなく「白山」と付けるなあなどと考えていました。改めて「白山」という名前を強く実感するひと時でした。  
 当館の白山テラスは晴天の日に、白山の絶好のビューポイントになります。また、平成30年1月28日(日)まで干支展～戌～を開催しております。これから本格的な冬が到来しますが、ぜひ博物館にも遊びに来てみてください。(出口)

## 【交通案内】

- 【電車】
  - 福井鉄道福武線 足羽山公園口駅・商工会議所前駅 各徒歩20分
- 【バス】
  - 京福バス：清水グリーンライン(74系統) 足羽山公園下バス停(あじさいの道登り)、不動山口バス停(藤島神社登り) 各徒歩10分
  - コミュニティバスすまいる：西ルート(足羽・照手方面) 愛宕坂バス停 徒歩10分
- 【徒歩】JR福井駅から徒歩30分

## 【ご利用案内】

- 開館時間 ●午前9時～午後5時15分(入館は午後4時45分まで)
- 休館日 ●月曜日(祝日は開館)、祝日の翌日、年末年始
- 入館料 ●高校生以上100円(20名以上の団体は半額) 中学生以下、70歳以上、障害者および付添の方は無料

